

施策評価調書〔途中評価(平成30年度実施)〕

長崎県総合計画における位置付け

将来像	安心快適な暮らし広がる長崎県	作成年月日	平成30年 月 日	長崎県総合計画記載ページ	140	P
基本戦略名	10 にぎわいと暮らしを支える社会基盤を整備する	施策主管所属	土木部道路維持課			
施策名	(3) インフラの長寿命化の推進	課(室)長名	課長 馬場 一孝			
		施策関係所属(部局名課名)	土木部建設企画課 港湾課 住宅課 河川課			

1 施策の内容

【取組の概要】	【めざす姿】
インフラ施設の老朽化による事故を事前に防止するための、適切な維持管理と老朽化対策を実施します。	社会インフラの戦略的な維持管理・更新等の実現により安全・安心が確保されている。

2 施策の進捗状況と評価

施策の進捗状況の評価																						
□ A : 順調 ■ B : やや遅れている □ C : 遅れている																						
<p><<これまでの成果>></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 県管理の橋梁、トンネル、港湾施設、空港施設、公園施設、ダム、水門、樋門および県営住宅の維持管理計画に基づき、計画的に適切な維持管理や更新を行い、トータルコストの縮減・予算の平準化を図り、県民など利用者の安全・安心を確保した。 ● インフラ構造物の維持管理・長寿命化に携わる人材を創出するため、長崎大学と連携して道守育成講座を開催して、道路施設の点検に不可欠な高度な技術力を持つ「道守」を285名育成した。 <p><<進捗状況に課題がみられる分野>></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 長崎県橋梁長寿命化修繕計画に基づき、橋梁点検や橋梁補修を行ってきたが、他事業による架替等を検討して橋梁が3橋あることから、補修時期を見合わせており、計画に対して実績の進捗がやや遅れている。 	<p>予防的な補修により 安全性が保たれた橋梁の割合</p> <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>目標値</th> <th>実績値</th> </tr> <tr> <td>H26 (基準年)</td> <td>100%</td> <td>89%</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>100%</td> <td>97%</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>100%</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>H32</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </table>	年度	目標値	実績値	H26 (基準年)	100%	89%	H28	100%	97%	H29	100%	98%	H30	100%	100%	H31	100%	100%	H32	100%	100%
年度	目標値	実績値																				
H26 (基準年)	100%	89%																				
H28	100%	97%																				
H29	100%	98%																				
H30	100%	100%																				
H31	100%	100%																				
H32	100%	100%																				

3 施策の成果指標の進捗状況

指標	基準年	H28	H29	H30	H31	H32	最終目標(年度)	進捗状況の分析	
								進捗状況	分析
予防的な補修により安全性が保たれた橋梁の割合	目標値①	/	97%	100%	100%	100%	100% (H32)	橋梁点検結果から健全性を診断し、早期の修繕が必要と診断した204橋のうち、修繕が完了した橋梁の割合を成果指標としている。 平成29年度末時点で201橋が修繕を完了したことから、実績は98%となっている。残り3橋については、現在、他事業による架替等を検討しており、平成32年度以降の対策実施を予定している。 現在、管理する橋梁の殆どは安全性が保たれており、今後は予防的なこまめな補修を中心に実施し、利用者の安全・安心を確保する。	
	実績値②	89%	97%	98%			進捗状況		
	②/①	/	100%	98%			やや遅れ		

4 新たな課題や社会情勢の変化等

- 交通安全施設整備事業や河川改修事業の計画区間の橋梁修繕については、調整が必要である。
- インフラの点検等については、将来的な担い手不足が懸念されており、これまでの予防的保全等の計画的なメンテナンスによる費用の平準化・コスト縮減に加え、作業の省力化、効率化を図る取り組みが必要である。



5 課題を踏まえた今後の対応方針

- 他事業の計画区間にある橋梁修繕については、緊急を要する修繕を除いて実施を見合わせ、対応時期は遅延するが、手戻工事とならないよう他事業と修繕・架替等について調整して対応を決定していく。
- 将来的に点検等の高度化・効率化に資する民間の新技術を導入することを見据え、近年、研究開発が進んでいる点検ロボットや非破壊検査によるスクリーニング技術などのフィールド実験・評価を参考にしながら、現場導入について検討をしていく。

6 施策を推進する事業群の状況

事業群①「インフラの戦略的な維持管理、更新の推進」 事業群評価調書10-(3)-① 参照